

## 岡山県眼科医会発行の「眼科豆知識」（最新号、過去発行号）等のご紹介

日頃から眼科学校保健に関してご協力いただきありがとうございます。岡山県眼科医会は、県民の皆様の目の病気の予防や目の健康についての正しい知識を発信するための活動を行っており、特に眼科学校保健活動の一環として、平成20年からは年2回程度、眼疾患の知識と眼科専門医受診の重要性を児童、生徒、保護者の皆様にお知らせする目的で、保健だより等で利用しやすい形式の資料「眼科豆知識」を発行しております。

従来、眼科学校医の置かれている学校等の養護教諭の皆様には眼科学校医を通じて「眼科豆知識」をお届けしてまいりましたが、この度も、県教育庁保健体育課のご高配により、眼科学校医の置かれていない学校等の養護教諭の皆様にも「眼科豆知識」の最新号をお届けできることになりました。

この「眼科豆知識」を学校保健だよりの発行時、あるいは学校保健委員会や授業等の際の配布資料としてご利用いただくこと等により、児童生徒の皆様目の健康の増進のためにご活用くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去に発行した「眼科豆知識」も読んでみたいとのご要望にお応えするため、岡山県眼科医会ホームページ内に以下のID・PWでご覧頂ける「教育関係者向け情報」欄を設けて掲載しております。また「教育関係者向け資料」欄にはPDF資料を掲載しておりますので、「眼科豆知識」と併せてご利用いただければ幸いです。

岡山県眼科医会ホームページURL <http://www.okayama.med.or.jp/gankaikai/>

「教育関係者向け情報」欄「眼科豆知識」&「教育関係者向け資料」共用

ID: teacher PW: 2044

平成30年1月

岡山県眼科医会

会長 渡辺英臣

学校保健担当副会長 辻優

学校保健担当副会長 辻俊彦

岡山県眼科医会事務局

住所：〒700-0024 岡山市北区駅元町19-2 岡山県医師会館内

電話：086-250-1202、FAX：086-250-6401

幼稚園・小学校 養護教諭・保健担当の先生へ

日頃から眼科学校保健に関してご協力いただきありがとうございます。岡山県眼科医会では、児童・生徒に多い目の病気を児童、生徒、保護者に正しく理解して頂くため、「眼科豆知識」シリーズを眼科学校医からも各学校に届けさせていただきます。学校新聞等に掲載して、日頃より目の病気への理解を深めて頂ければ幸いです。掲載いただける場合は見本をお送りくださいますようお願い申し上げます。

岡山県眼科医会 学校保健部 眼科学校(園)医( )

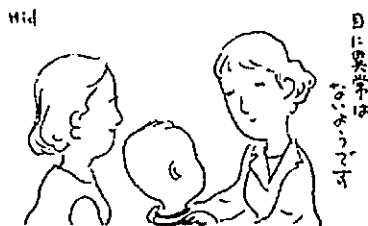
## 眼科豆知識① <子どもの目と心>

現代社会では子どもにも色々なストレスがかかることが多く、からだに様々な症状が現れることがあります。そのようなストレスが原因で視力の低下や視野の障害が現れるものを、心因性視力障害と言います。

心因性視力障害の場合、0.4～0.6程度の比較的軽い視力低下を示すことが多いため、半数以上の子どもは本人が見えていないことに気づいておらず、定期健康診断でみつかることがよくあります。眼科で検査をすると眼球自体には特に悪い所がないにもかかわらず、裸眼の視力が落ちていたり、近視や遠視や乱視に対し適切なメガネをかけても、視力がでません。このような心因性視力障害は、小学生や中学生などの子どもに多くみられます。ストレスの原因がはっきりしないことも多くありますが、なんらかのストレスが原因となって目の症状に置き換わり、視力障害がおこると考えられています。

子どもの心因性視力障害の治療は、親子が一緒に受けることが必要です。根本的な治療はストレスの原因を取り除くことができますが、簡単には解決できないことも多くあります。担任の先生などと連絡をとりながら、子どもの様子や環境を観察し、長期的に経過をみることも必要です。心因性視力障害は、眼科的には異常がないので、ほとんどの場合、視力障害は改善します。子どものある時期におこる一時的な現象ととらえ、保護者が過度に心配しすぎないようにしましょう。

心因性視力障害で失明することはなく、症状が発見されてから1年以内に視力が改善するものがほとんどですが、治療にあたっては、子ども本人、保護者と主治医が信頼関係を築いて診療を続けることが大切です。



(岡山県眼科医会HP <http://www.okayama.med.or.jp/gankaikai/>もご参照下さい。)

中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校 養護教諭・保健担当の先生へ

日頃から眼科学校保健に関してご協力いただきありがとうございます。岡山県眼科医会では、生徒に多い目の病気を生徒、保護者に正しく理解して頂くため、「眼科豆知識」シリーズを眼科学校医からも各学校に届けさせていただいております。学校新聞等に掲載して、日頃より目の病気への理解を深めて頂ければ幸いです。掲載いただける場合は見本をお送りくださいますようお願い申し上げます。

岡山県眼科医会 学校保健部 眼科学校医 ( )

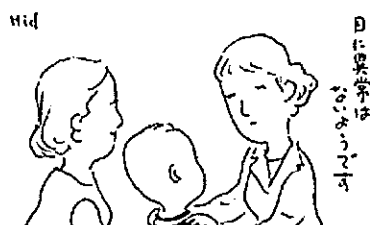
## 眼科豆知識②① <子どもの目と心>

現代社会では子どもにも色々なストレスがかかることが多く、からだに様々な症状が現れることがあります。そのようなストレスが原因で視力の低下や視野の障害が現れるものを、心因性視力障害と言います。

心因性視力障害の場合、0.4～0.6 程度の比較的軽い視力低下を示すことが多いため、半数以上の子どもは本人が見えていないことに気づいておらず、定期健康診断で見つかることがよくあります。眼科で検査をすると眼球自体には特に悪い所がないにもかかわらず、裸眼の視力が落ちていたり、近視や遠視や乱視に対し適切なメガネをかけても、視力がでません。このような心因性視力障害は、小学生や中学生などの子どもに多くみられます。ストレスの原因がはっきりしないことも多くありますが、なんらかのストレスが原因となって目の症状に置き換わり、視力障害が起こると考えられています。

子どもの心因性視力障害の治療は、親子が一緒に受けることが必要です。根本的な治療はストレスの原因を取り除くことができますが、簡単には解決できないことも多くあります。担任の先生などと連絡をとりながら、子どもの様子や環境を観察し、長期的に経過をみることも必要です。心因性視力障害は、眼科的には異常がないので、ほとんどの場合、視力障害は改善します。子どものある時期におこる一時的な現象ととらえ、保護者が過度に心配しすぎないようにしましょう。

心因性視力障害で失明することはなく、症状が発見されてから1年以内に視力が改善するものがほとんどですが、治療にあたっては、子ども本人、保護者と主治医が信頼関係を築いて診療を続けることが大切です。



(岡山県眼科医会HP <http://www.okayama.med.or.jp/gankaikai/>もご参照下さい。)